

平成 30 年度 ちゃいるどはうす小さなうち 事業計画書

1、保育所の運営 開所日 平成30年6月1日

①定員 19名

0歳児…6名 1歳児…6名 2歳児…7名 平成30年6月 6名予定

②職員数 平成30年6月 8名

施設長 1名 ・保育士 6名うち保育事務(休憩保育士)2名 ・栄養士 1名

【囑託医】小児科：おひさまこどもクリニック 内田 章 院長

歯科：笠原歯科 金澤 卓也 院長

④職員会議の開催計画

毎月1回以上開催月1回土曜日に全職員(パート含む)参加し共通理解を図る。子どもが安全かつ安心して過ごせ、保護者が安心して預ける事が出来る環境作りを目標に、個々の子どもの発達状況やクラスの強化事項等を報告し、相談内容については他職員からアドバイスをうけられるようにし、全保育者がすべての子どもやクラスについて把握出来る様に会議を進める。行事について討議し、安全管理・衛生管理・災害・救命等を議題にあげる。栄養士・調理師を交え健康と食育に関する打ち合わせを行い、実践できるようにマイスターを配置し、食を営む力の育成に向けていく。

5月15日(火)開所前会議・事前準備について

6月14日(土)クラス報告・行事について・えほんの選び方について予定

7月23日(水)クラス報告・行事について

8月27日(土)クラス報告・行事について・美術・音楽の環境について予定

9月24日(水)クラス報告・行事について

10月11日(火)クラス報告・行事について・収穫祭について予定

11月12日(土)クラス報告・行事について・感染症・安全管理・アレルギーについて予定

12月10日(土)クラス報告・行事について・美術・音楽について予定

1月21日(土)クラス報告・行事について・保護者支援について予定

2月14日(火)クラス報告・行事について・保育過程について予定

3月11日(土)クラス報告・行事について・新年度について予定 ⑤ 研修

園内では、脳科学、医学、小児精神医学、心理学等最新の情報をもとに、保育者が自信をもって教育と保育に関わりそれによって、子どもと保護者が安心して過ごせるよう、年8回の園内研修・月に4回のクイックミニ講座又は主に北関東市区の保育園・幼稚園・保護者他を対象として年4回の北関東モンテッソーリ教育研修会の実施、教育者の研修の場の提供と共に教育の質の向上に努める、保護者向け講演会を2回開催する。

その他行政、保育団体等の案内により、適任者を外部研修として参加予定。

【施設長研修・主任保育士研修・保育士研究委員会・保育士全体研修会・給食部会・日本モンテッソーリ教育総合研究所教師育成スクーリング・保育士キャリアアップ研修等】

2、保育

①保育目標

保育園は児童福祉法に基づき、乳幼児の健全な発達のための温かい家庭的な保育園を目指すとともに、地域の児童福祉活動を行うものとする。

②保育時間 午前7時30分～午後7時00分（延長保育時間 午後6時30分～午後7時）

短時間保育：8：00～16：00 標準時間：7：30～18：30

③保育内容

保育指針の保育内容を軸に5領域の相互関係、総合的関わりを重視し、モンテッソーリ教育法と自然体験活動を融合させた内容で、以下のように援助する。

- ・人を思いやる 優しく強い心が育つよう援助する。
- ・物事に感動する 豊かな心が育つよう援助する。
- ・活発に遊べる 元気な子どもに育つよう援助する。
- ・自分の事が自分で出来る子どもに育つよう援助する。
- ・自分で感じ、考えることが出来る子どもに育つよう援助する。
- ・生きる力を子ども自身が育成できるよう援助し、全人格の形成を目指す。

④健康管理

- 1,医師による児童の健康診断（9月27日 年1回実施予定）
- 2,歯科医師による園児の歯科検診（10月29日 年1回実施予定）
- 3,園児の身体測定（毎月1回実施予定）
- 4,職員の細菌検査（全職員：毎月1回実施予定）
- 5,職員の健康診断（年1回・内田巡回クリニックに依頼予定）

⑤特別保育事業

- ・延長保育事業 月曜日～金曜日 18：30～19：00

⑥主な行事

- 6月20日（水）新入児を迎える会 *その後入園児月に実施
- 6月 2日（土）うんどうのつどい
- 9月10日～14日 保育参観週間
- 10月30日（火）収穫祭
- 12月25日（火）クリスマス会
- 1月25日（金）子育て講演会
- 3月10日（土）修了式
- 3月28日（水）お別れ会

※お誕生会は毎月第3水曜日に 実施予定

※避難訓練は消防総合訓練を年2回（7月・10月）、不審者訓練（12月）、地震訓練（6月・2月）を組み入れ毎月1回実施予定

⑦異文化コミュニケーション事業実施

日本語を母国語としない日本人以外の担当者を配置し言語や文化の違いを体感的にわかるようにする。あくまでも外国語を教えるのではなく、自分と違う人がいる、そのような人たちとのコミュニケーションを図れる事によって自分との違いを知り、その違いを受け入れることが出来るというのが目的となる。すなわち平和教育へも繋がる。（現在求人募集中）